

# 富山湾における定置網の漁獲変動から見た ブリの回遊経路について

井上 智

【目的】富山湾は、暖流である対馬海流と寒流である日本海流のぶつかる海域である。富山湾は日本海側に位置する湾であり、最深部は 1200m 以上と日本海側で最も深い湾の一つで急深かつ複雑な地形を形成している。また、富山湾における漁獲は 7 割以上が定置網によるものである。定置網は、同一地点で長期間連続して漁獲を行う受動的漁具であるため、その漁獲データは定点観測の視点より長期的な漁獲資源の動向の一端を把握することが可能であると考えられる。そこで今回、富山湾の西部における各定置網の漁獲量を整理し、漁場におけるブリ (*Seriola quinqueradiata*) の回遊経路を推定し、海洋環境がどのように関わっているのか検討を行う。

【方法】富山県の氷見漁業協同組合の協力により提供された 2005 年 12 月から 2007 年 7 月までの富山湾西部における大型定置網 14 ヶ統、小型定置網 5 ヶ統の漁獲データを整理した。各定置網の設置地点とブリの漁獲の推移からブリの回遊経路を導き出し、海底地形図と海上保安庁海洋情報部が提供する海洋速報の海流図と併せて検討した。

【結果】同じ富山湾内においても定置網によってブリの漁獲量と漁獲日には違いが見られた。設置地点が近くても同様の結果が示されたため、漁獲の推移から回遊経路を導くことができると考えられた (Fig. 1)。ブリが漁獲されるのは冬期のみであり、回遊経路については氷見漁協の定置網では最北端に位置する大型定置網の「脇沖」から南へ向かい、その後、東へと向かっていく反時計回りの経路が導き出された (Fig. 2)。定置網が岸側から沖側へ複数並んでいる海域では、漁獲は沖側が中心であり、岸側の小型定置網における漁獲量は少なかった。推定された海洋経路は 100m 等深線に沿っていた。回遊経路と海流には、はっきりとした関係は見られなかった。

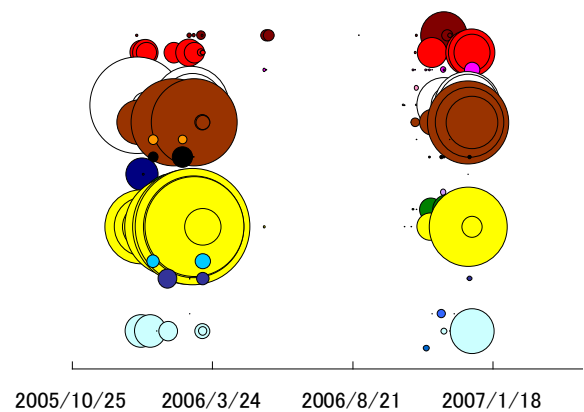


Fig. 1 各定置網のブリの漁獲量

- 脇沖 ● 島岸 ● 馬場 ● 前小 ○ 前大 ● 前岸
- 千ヶ淵 ● 小杉岸 ● 樽水 ● 茂一 ● 茂二 ● 茂三
- 川岸 ● 中六 ● 中七 ● 孫 ● 青二 ● 青三 ● 鎌岩

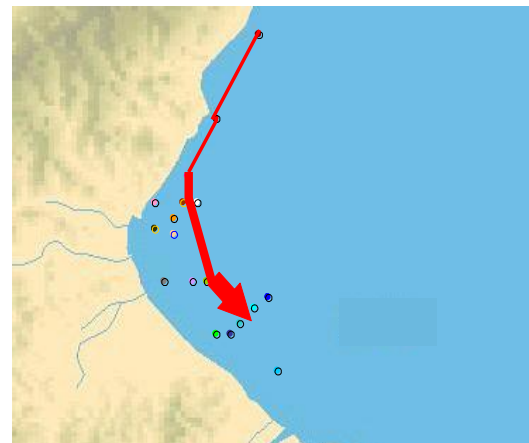


Fig. 2 ブリの手回遊経路